

# 会報

No. 18

平成元年 3月20日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9

京都府立図書館内

TEL (075)771-0069



## 「言葉いろいろ」

京都府立図書館長

浜 辺 一 彦

おこります。

昨秋、府立図書館では能・狂言をテーマに連続講座を開きました。能・狂言は分りにくいのではないかと、不安はありましたが、講師の評論家・権藤芳一氏は、平易な言葉で、ウィットに富んだお話しをされ、大好評でした。「能をもっと沢山の人の見てほしい。いたずらに敬して遠ざかるのではなく、楽な気持ちで接してほしい」という氏の口頭の信条があったからこそと感服しました。

能の世界で、シテ（主役）ワキ（脇役）ツレ（助演者）アイ（狂言方の総称）など独自の用語があるように、歌舞伎でもかづらをかぶることをあたまをつける、化粧することを顔をやる、扮装することをこしらえるなどといわれていますが、歌舞伎俳優の片岡仁左衛門氏は、「言葉」と題した随想の中で、講演会のあと「こちらはわかってもらえていないつもりでしゃべっていても、聴く方にとってはチンプンカンプンでわからないことが多かったことと思いませんか」と書かれています。

同じようなことは図書館でもよく

「このとしよ（図書）は、かいか（開架）のそらき（総記）のしよか（書架）にはいか（排架）されています。」

「もくろく（目録）をけんさく（検索）して、りようひょう（利用票）にせいきゆうきごう（請求記号）と、しよめい（書名）をきにゅう（記入）してください。」

「ちっかん（逐刊）逐次刊行物）のバックナンバー（旧刊号）はしよこ（書庫）からすいとら（出納）します。」

「このさんこうとしよ（参考図書）はきんたい（禁帯）禁帯出）になっています。」などなど……。

はじめの利用者や見学のの人にこんな説明をしてキョトンとされ、あとでシマッタと思うことは何回もあります。反対に、意識しながら「カードをひいてきてください」といったら、本当にカードを引き抜いて持ってこられた方があり、あ然としたこともありました。いずれも、図書館の利用者なら当然こんな用語は理解し

ている筈だという勝手な思い込みからきていると反省せざるをえません。レファレンスという言葉もむづかしい。図書館によせられる質問に対して資料を使って回答するという近代的図書館サービスの中心となる業務ですが、一般にはまだまだ理解されていません。電話でも、最初から「レファレンスの担当へ」とかかってくるのは図書館関係者から。「こんな本があるか調べてほしい」「こんなことを調べてほしい」がほとんどといってもよいと思います。図書館側でいくらレファレンス係とか、参考係とかいってみても、ひとりよがりといわれるかもしれません。

全国的にも、図書館利用が住民の五割・六割を超える自治体が次々に誕生しています。図書館の職員の利用者との対応がますます重要視される時代がきたといえます。利用者の立場に立って、もっとわかりやすい言葉、もっとやさしい言葉で図書館の仕事の説明したいものです。

念のため「開架」「総記」「レファレンス」を辞書で調べてみました。「広辞苑」の初版（昭和三十年五月）には「開架」しか出ていませんが、昨年十一月に出版された三省堂の「大辞林」には三語とも収録されており、社会的にもようやく認知されるようになったとの感がします。

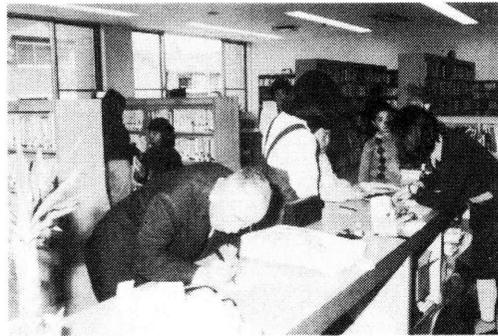
# 図書館めぐり

## 八木町立郷土資料館図書室

八木町では、昭和六十二年三月郷土資料館図書室ができるまで、府立の移動図書館「あゆみ号」に月一回来てもらっていました。当時も公民館に図書室を設け、図書サービスを行なっていたのですが、場所が八木町の南西に位置し、開室も週三回で、八木町全域にわたっての利用とまではいきませんでした。

ところで、移動図書館「あゆみ号」は北屋賀地区、神吉地区、氷所地区、といった地域に来てもらったのですが、これらの地域からは公民館図書室までは距離があって、幼児や小学生には図書室の利用はできませんでした。そこで、「あゆみ号」を利用していただいていた。その後は地域の公民館等に本を置き、貸出しを行ってきたところです。図書については、郷土資料館図書室には二〇、〇〇〇冊、公民館のある北屋賀地区に三、〇〇〇冊、神吉地区に一、五〇〇冊、氷所地区に五〇〇冊設置し、府立より二、〇〇〇冊貸出しを受けて活用しております。

今後とも八木町全域にわたり、日常生活の中に本が身近にあるよう努めていきたいと考えています。



## 丹後町中央公民館図書室

丹後町中央公民館図書室の、ささやかな活動を報告いたします。

図書利用の大部分は移動図書館によってまかなわれています。移動図書といっても、車ごと移動する近代的なものではなく、四つの地区公民館に図書を置き、中央館から定期的に本の入替えに行っています。各館とも月二回開設し、利用者の大部分が小学生という状況です。

今日までに、月一回「図書の日」を設定したり、読書週間に夜十時まで開館したり、子ども向けの本を別室に集め「子ども図書室」として開放したりして来ましたが、しかし、いずれも利用拡大の成果となつて現われてはいません。利用の拡大が思うように進まない中で「丹後町の図書室」らしい蔵書・充実を当面の目標としています。つまり、「海」や「魚」や「民俗」に関する図書の購入に力点を置いています。



### 役員の変更

理事

新 森 田 和 義

(久御山町立図書館長)

旧 田 口 清

新 加 藤 政 男

(美山町中央公民館長)

旧 山 内 昌 樹

### 館長の移動

加茂町立図書館

新 西 本 芳 男

旧 旭 正 英

美山町中央公民館

新 加 藤 政 男

旧 山 内 昌 樹



### ストーリーテリング

#### 研修会に参加して

宇治市中央図書館

川崎 温子

小雪のちらつく二月二日、八幡市民図書館で行われたストーリーテリング研修会（京都府南部図書館等連絡協議会主催）は、澤田館長をアドバイザーに迎え、参加者が実際に演じる形で進められました。

各自「お話」を準備して臨んだのですが、予想していた事とは言え、大人の前で話すことのプレッシャーは相当なものです。けれども幸運な事に順番の早かった私は、他の方のお話をゆっくり楽しむ事が出来ました。日本の昔話あり、外国の話ありでバラエティーに富んだ九つのストーリーテリングによって、「お話の世界」に浸る喜びを体験しましたし、演者のひととなりを感じさせる話し方とお話の選び方は大変参考になりました。

緊張のほぐれた後半のディスカッションでは、お話を「選ぶこと」「覚えること」の苦心談やアドバイスが和気あいあいと話合われました。何より、たくさんのお話が聞けた事とチャレンジしたいお話に出会えた事が、この日の大きな収穫でした。

### 近公図参考事務

#### 研究集会(京都府)

京都府立総合資料館

黒坂 紘一

昭和六十三年度近畿公共図書館参考事務部門研究集会は、平成元年二月九日、京都府立総合資料館の主管により、京都市上京区の平安会館平安の間を会場として開催され、近畿各府県の公共図書館から八十五館百三十一名もの多くの職員が参加し、盛況のうちに終わりました。

今年度は「参考事務の基本と最近の課題」を研究主題とし、参考事務の基本について学ぶとともに、参考事務における最近の課題の中から、図書館活動の重要な柱のひとつである児童へのレファレンスと、情報化時代これからのテーマとして「EBSのレファレンスへの対応をとりあげました。

午前には豊中市立岡町図書館副館長久保和雄氏による基調報告『参考事務の基本について』があり、永年図書館に勤務されている久保氏が、豊富な体験の中からレファレンスの基本に触れる具体例をあげて参考事務のあり方について参加者に語りかけました。

午後の事例発表では、はじめに大津市立図書館の中井充子氏が図書館における児童奉仕活動、フロアワークの実

践体験をもとにして『児童レファレンスー夏休みこども相談所からー』を発表しました。参考事務研究集会での児童レファレンスの実情報告は初めてという事で参加者の関心をあつめました。

つづいて大阪教育大学附属図書館閲覧係長寒川登氏が『参考事務におけるEBS等の応用』を発表しました。昨年五月に発売されたばかりで、まだ導入館も少なく、それゆえ多くの館が関心をもっている「EBS」の長所、短所、参考事務への応用の可能性と問題点などについてわかりやすく説明されて参考になりました。

事例発表のあと、報告者、発表者と参加者の間で熱心な協議が展開されました。



## ニ ュ ー ス ・ N e w s

### 田辺町北部住民センター(仮称)の図書室 今春オープン

田辺町は面積四十三平方キロメートル、人口四万六千五百人の南北に長い町です。現在ある図書館は、町の中央にあります。蔵書数六万冊、年間貸出冊数十五万冊、移動図書館は二十二か所を巡回しています。

今春、北部地域に分館がオープンします。面積二百五十平方メートルの開架フロアの図書室には、当初一万五千冊の図書等を備え、コンピュータによる貸出業務を行う予定です。

この分館は、図書館の全域サービス網の一翼を担うものです。これを機に田辺町の図書館網を広げていきたいと考えています。



## 舞鶴市立西図書館 建設計画

舞鶴市は現在、東図書館を建設中ですが、引き続き、平成元年度に西図書館の建設を目指し、西図書館建設委員会を設け、建設構想を検討しています。

この構想は、現在、市民会館の二階に併設されているのを、移転新築するもので、内部施設としては、生涯学習の場にふさわしいコーナーを設け、くつろいだ雰囲気の中で読書ができるよう、また屋外に縁陰コーナーを設けるとともに、歴史資料室を設け、貴重な歴史資料を保存し活用することを特色としています。

なお蔵書計画は平成元年度から四か年計画で、六万冊の整備です。

## 「テープ図書」の ご利用を

京都市中央図書館

京都市中央図書館では、視覚障害者など活字図書の利用が困難な市民のために、「テープ図書」の貸出しをはじめています。

これは、近年出版が盛んになってきた「テープ図書」を、中央図書館の資料に加え、図書サービスの拡充をはかっているものです。

貸出しは、原則として五巻以内で、貸出し期間は一か月以内となっています。

なお、伏見中央及び各地域館での「目録」による来館貸出しも行っていきます。

(平成元年度)

### 全国研究集会日程

○全国図書館大会

宮崎県宮崎市

十月二十五日～二十七日

○奉仕部門全国大会

群馬県前橋市

九月十二日～十三日

○整理部門全国大会

山口県山口市

十月五日～六日

○移動図書館分科会

沖縄県那覇市

十一月三十日～十二月一日



## 相互協力委員会ニュース

委員一同、ここ数か月間は毎月会合をもって「雑誌・新聞総合目録(仮称)」の編集作業に精力的にとりこんでいます。

所収すべき雑誌・新聞についての選別や再調査、タイトル(冠称不完全書名、アルファベット題字の扱い)や所蔵表示(巻号か通号か、元号か西暦

か)等の統一、冊子上の体裁のあり方等々、作業は本当に神経を集中させ、理解の共通を徹底させて行わねばできないことばかりです。

各館には委員会からの再調査に煩わされながらも、自らの雑誌新聞の受入や管理について考えるよい機会となったのではないかと考えられます。

作業は最終原稿カードの作成段階に入っていますが、今暫く各館への再調査が続くと思いますのでその節はあたたかいご協力をお願いいたします。

旨く運べば、3月中には印刷発注、4月中には校正作業を済ませ、5月の協議会総会にはおひろめとなるように最大限努力いたす積りですので、ご支援をお願いします。

### 広報委員会だより

暖冬続きで、京の町に小雪が舞う日も少なかったようですが、「春一番」も吹き抜け、花のたよりが聞かれる季節となりました。

今号には、京都府立図書館長の浜辺一彦氏から原稿を頂きました。

今年度会報発行のために、原稿をお寄せ頂いた方々に感謝いたします。平成元年度も、皆さん方のご協力を得て、充実した内容にしていきたくと考えています。

図書館に関する情報を、連絡協力員までお寄せ下さい。